

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 旭川龍谷高等学校

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他 ( )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒078-8235

北海道旭川市豊岡5条4丁目

E-mail post@ryukoku.info

Website http://ryukoku.info

幼児児童生徒数 男子 342名 女子 248名 合計 590名

幼児・児童・生徒の年齢 15歳～18歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

## 3. 活動内容

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

当校は、仏教精神に基づいた「智育・徳育・体育」を教育の基本方針として、校訓「慈光照曜」(み仏のみ教え仰ぎ 清く正しく 朗(あか)く 美(うま)しくあれ)のもと、ESDを報恩感謝の心を大事にする教育活動と捉え、ESDの実践を通して心豊かな生徒の育成を目標とした。

具体的には、外国語教育・国際理解教育を重視した教育を推進するとともに、郷土文化への理解を深める活動や、社会福祉活動に積極的に取り組んできた。ユネスコスクールとしては、これらの活動を継続・発展させ、生徒ひとり一人に持続可能な社会の担い手に必要な知識・能力・態度・価値観を身に着けさせることを柱に、①国際理解に係わる活動、②郷土理解に係わる教育、③社会貢献に係わる学習、を行った。

### ① 国際理解に係わる活動

1. 外国人講師による英会話授業、Eラーニング・CALLシステムの活用
2. 留学生の派遣・受入
3. 海外見学旅行における姉妹校・現地学校交流

## ② 郷土理解に係わる教育

1. 郷土部による「上川アイヌの研究」
2. 各種行事への参加・協力
3. 各種儀式への参加・体験

## ③ 社会貢献に係わる学習

1. インターアクトの取組
2. 生徒会を中心とした取組
3. 総合的な時間における取組



本校は、1985年に米国のハワイ州立のカラニ高校と姉妹校の締結をしています。毎年、見学旅行で代表生徒による親善訪問し交流を深めています。



(左) 帰国するサラさん（ルーマニア出身）  
(右) 帰国した黒沼さん・交換留学生たちとの友情の証の交換バッジを付けて登壇



アイヌ民族の伝統儀式、カムイノミ イナウ式に参加。カムイノミ イナウ式は、かつて水上交通に依存していたアイヌにとって交通の難所であったカムイコタンでの安全祈願を行う儀式です。



2/7～2/12に旭川冬まつりが開催され、インターアクトクラブ(IAC)のメンバーが今年も高校生ボランティアを行いました。

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

『言葉図鑑 1, 2』（偕成社）2013 『ボランティア活動ノート』（一橋出版）2003 『アイヌ民族誌』上・下（第一法規出版）1969 など <a href="http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp">http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp</a> （北海道教育委員会公式ウェブサイト） <a href="http://www.zcwvc.net">http://www.zcwvc.net</a> （地域福祉・ボランティア情報ネットワーク公式ウェブサイト）
--

### ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのよう

に位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。(200～300字程度)

・「郷土理解プロジェクト」「社会貢献プロジェクト」の各活動では、生徒が自己評価シート、振り返りシートを記入・提出し、教師がそれら进行评估し、評価コメントとして生徒に伝えている。  
・「社会貢献プロジェクト」の活動では、教師による評価に加え、関係者による評価も行い、評価コメントとして生徒に伝えている。  
・上記以外は、調査レポート、プレゼンテーション・発表内容、各活動に取り組む姿勢・態度について教師が観察・評価し、5段階評価の評点と評価コメントを生徒に伝えている。

③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

・「国際交流プロジェクト」の活動では、海外見学旅行でのハワイコース及び台湾コースで事前に交流学校先に連絡を取り、交流内容の協議や事前打合せ(メール)を行い、帰国後はプレゼンテーションやレポート作成で振り返り学習を深めている。  
・「社会貢献プロジェクト」の中には、毎月16日を「報恩感謝の日」としており全校生徒から献金してもらい、発展途上国の少年に学費支援している。

④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

毎年「学校評価」アンケートを実施しており、ユネスコスクール活動も含め、各実践課題の評価および分析を行っている。生徒や保護者にも全員アンケート実施しており、とりわけユネスコスクール活動には、更なる周知と実践継続が求められている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

本校の学外ホームページを通じて、様々な教育実践が発信されている。部活動のブログも盛んでタイムリーな情報発信がなされている。なかでも、ホームページを通じての問い合わせ等には、随時回答しており、アクセス回数も増えている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度)

旭川市内の大学・専門校で組織された産学地域連携組織である「旭川ウェルビーイング・コンソーシアム」との協働で実施した「育児体験」や旭川中小企業家同友会と連携した「スチューデント・フォーラム」や北翔大学との「高大連携事業」、旭川福祉専門学校との「高専連携事業」を継続実施している。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

H29年度に他のユネスコスクールとの交流等は実施できませんでした。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

決して新しい企画ではないが、これまで実践してきた諸活動が、ユネスコスクールとして ESD の観点で見直すとそれぞれの分野・プロジェクトの諸活動に質的向上が見られると実感します。

到達可能な目標を設定し実践していく中で、生徒や指導教員は PDCA サイクルを基本とする力がついてきています。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

今年度の本校の重点目標は、『生徒自らが協働や対話を通して高い資質・能力を身に付ける教育の実現』です。

ユネスコスクールとしての実践のポイントは、3つです。

1. 国際交流
2. 郷土理解
3. 社会貢献

これらの実践を重ねていくためにも新学習指導要領を見据え、ESD の観点を生かした課題解決型の授業を多く取り入れたアクティブラーニングを積極的に取り入れます。

校内組織では「ユネスコスクール委員会」を立ち上げ、外部団体との協働やネットワークを築く取組をします。